bukken way

corporate philosophy

BEST PARTNER LOGISTICS

BUKKEN

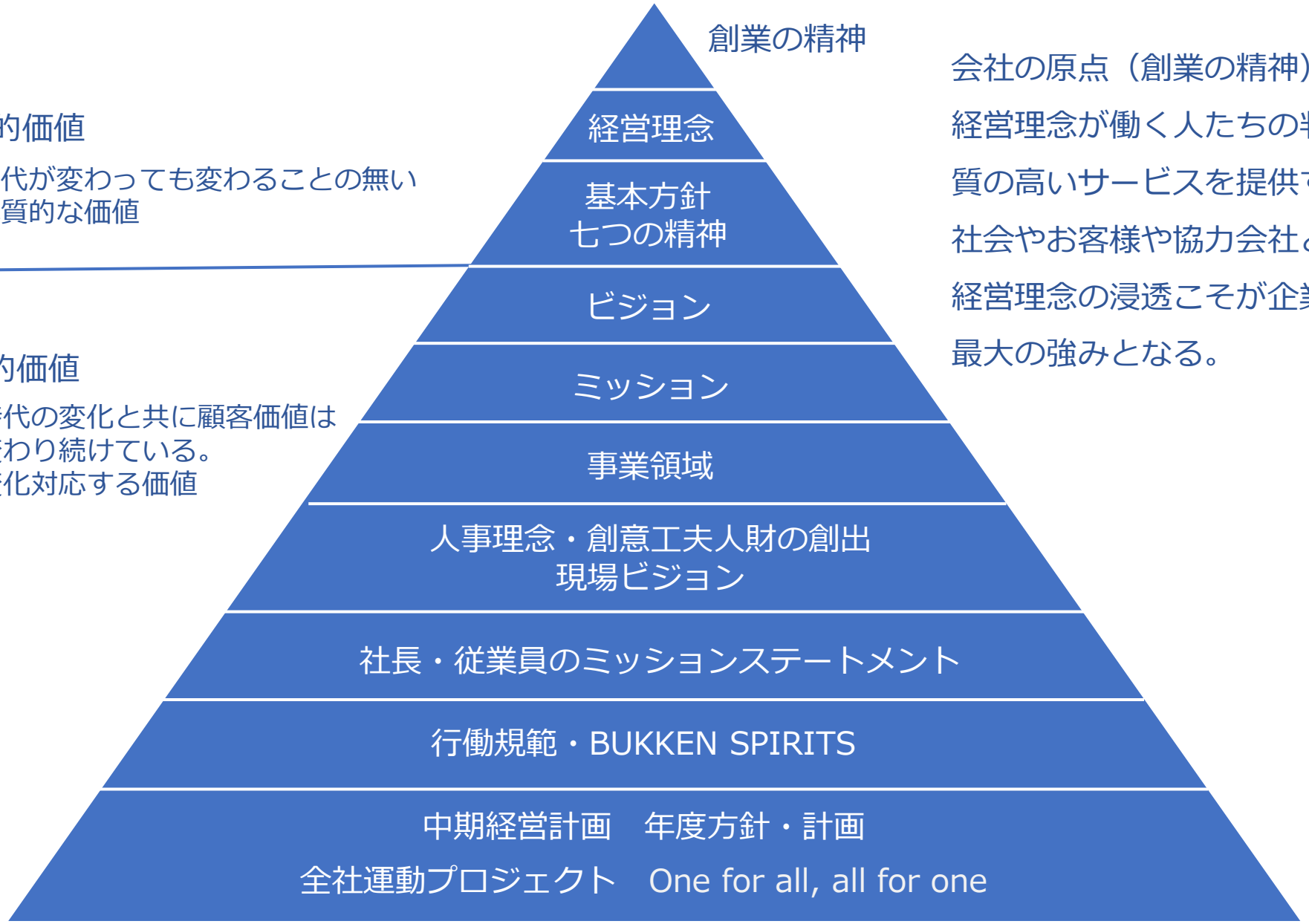
Corporate philosophy Concept system 理念体系

普遍的価値

時代が変わっても変わることの無い
本質的な価値

相対的価値

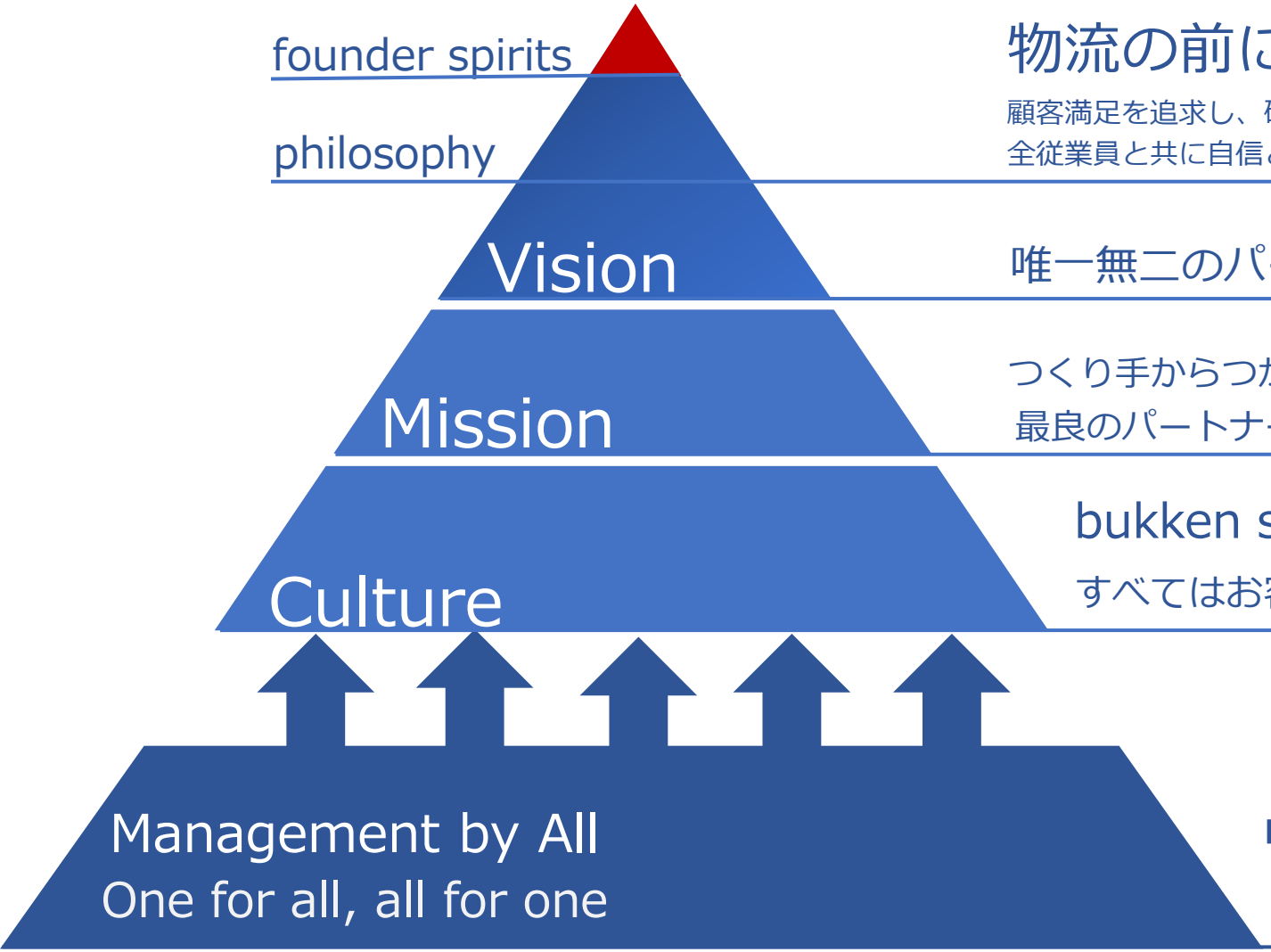
時代の変化と共に顧客価値は
変わり続けている。
変化対応する価値



会社の原点（創業の精神）を受け継ぎ
経営理念が働く人たちの判断と行働の源となり
質の高いサービスを提供することができる。
社会やお客様や協力会社との共感が生まれる。
経営理念の浸透こそが企業の価値となり
最大の強みとなる。

bukken Way

我々の進む道は決して平坦な道ではない。どんなに厳しい状況にあっても
BUKKENらしさを持ち続けて挑戦し続ける。それこそが我々の道である。



創業の精神　信頼と感謝

物流の前に心流あり。

顧客満足を追求し、確かな知識ときめ細かな心配りを備えた
全従業員と共に自信と魅力ある職場を創造し、永続的発展を目指します。

唯一無二のパートナー　無くては成らない存在であり続ける

つくり手からつかい手までの想いに責任を持つ
最良のパートナーであり続けること

bukken sprits

すべてはお客様の為に。自ら考えて行働する。

中期経営計画　年度方針
全社運動プロジェクト

創業の精神　founder spirits

創業者 土肥庸嗣は、大手企業の物流子会社で、誠意を尽くして自らの役割を果たし、共に働く一人ひとりが互いに信頼し合える関係を築きながら、常に工夫と研究を重ね、夢を持って仕事に向き合っていた。

そこで、自分自身のチャレンジと共に、もっと地域のお客様により良いサービスを提供しようと決意し、小さな倉庫から事業を始めた。

物流の世界は、モノづくりや販売のような目に見えるサービスとは異なり、地味で裏方的な仕事である。しかし、世の中になくてはならない存在であることを、創業者は深く理解していた。

そして、モノを取り扱う前に、そのモノを取り巻く「情報」こそが物流の真髄であることを強く考えていた。

お客様との信頼と感謝をもって大切な商品を取り扱うことで、私たちはなくてはならない存在となり、お客様の成長と共に成長していく。

その想いから、「物流の前に心流あり」という言葉を信条に、モノの可能性を研き続けるという想いで

株式会社物研と命名し、創業した。

どんなに時代が変わっても、働く仲間がお互いを認め合い、誠意を尽くし、健全な価値観と自由な発想を持って、お客様に心を込めて尽くす。

その根底にある信頼と感謝の心を、私たちはこれからも大切にしていく。

この想いを、忘れることなく。 物研の創業の精神としてここに記します。

since 1986　0921

経営理念

corporate philosophy

物流の前に心流あり

顧客満足を追求し
確かな知識ときめ細かな心配りを
備えた全従業員と共に
自信と魅力ある職場を創造し
永続的発展を目指します。

“Logistics begins with the heart.”

物流の前に、心流あり。



我が社の経営理念である「物流の前に心流あり。」という想いは、全ての事業活動における判断基準であり、社会から要求されている使命であります。我々はお客様の大切な商品を扱います。ただ単に物として扱うのではなく、そこに込められた多くの人々の心を扱います。その心に触れることで働く人の心が律せられ、自らが行う仕事の意味と価値を理解します。

人の心に寄り添うことで、その心に応えようという想いが湧きあがってきます。「お客様のお役に立ちたい」と、それこそが、人と人との心のつながりを創り出し、人々を幸せにし、この社会が繁栄する源泉となるのです。

確かに陽の目の当たることのない、裏方的な仕事ではありますが、同時に縁の下の力持ちであることを忘れてはいけない。地味でありながらも大事なことを託されているという自信と誇りをもって頂きたい。

我々は誰かの役に立っている、どこの誰かは解らないがそんなことはたいしたことではない、大切なのは誰かと誰かの喜びをつなげている。それは、人と人とのつながりを創っていると言える。そこには多くの笑顔がある。この事を信じることです。自信と誇りを持とうではありませんか。今日も「そこに心流はあるのか」と、を自らに問いかけよう、そして多くの笑顔をつなげていく仕事に誇りを持とう。 さあ、素晴らしい仲間と共に。

感謝合掌　　代表取締役　土肥克次

基本方針

◆お客様第一主義

・私たちは、お客様の心を扱います

・お客様の発展に全力で尽くします

◆従業員尊重主義

・私たちは、お互いを尊重しあい認め合い働くことの楽しさを共有できる職場を創ります

・チームワークを大切にして全員参加で成果を創ります。

◆ベストパートナー主義

・お客様を支える立場を理解し、相互に価値を創造し共に発展する関係を構築します。

・お客様とのより良い関係性を第一の商品とします。パートナシップを売っている。

◆社会貢献主義

・私たちは、地球環境の保全を優先します。

・私たちは、地域社会へ貢献し周りの人を幸せにします。

・私たちは、国際的な視野を持ち、その国、地域、文化、習慣を尊重し国際的発展に貢献します。

七つの精神　働く心構え

一の精神

常に公明正大であること

常に物事には、正しくあれ

二の精神

失敗を恐れずに常に挑戦し続けること

威風堂々と事にあたれ

三の精神

自らに自信を持つこと

自分を信じて物を観る

四の精神

仲間を大切にすること

関わらずして、成果なし

五の精神

志を高く、強く持つこと

常に前向きな目標を持ち続ける

六の精神

課題としっかり向き合うこと

あきらめない、逃げない、立ち向かうのみ

七の精神

信頼と感謝の心を持つこと

何事にも素直な心で感謝の気持ちを持つ

社名　：　株式会社　物　研

物の可能性を不断なる研究を続け、研き続ける。

ロゴマーク



社名である物研の頭文字 ”B“ をデザイン化

流通の「流れ」と人の「心」を表現している。

コーポレートカラーであるブルーで、お客様を陰ながら支える唯一無二の存在でありたいという想いを表現し、先端の赤は従業員一人ひとりの情熱を表している。

vision

唯一無二のパートナー

我々はお客様の成長エンジンとなるべく
無くては成らない、唯一無二の
パートナー企業を目指します。



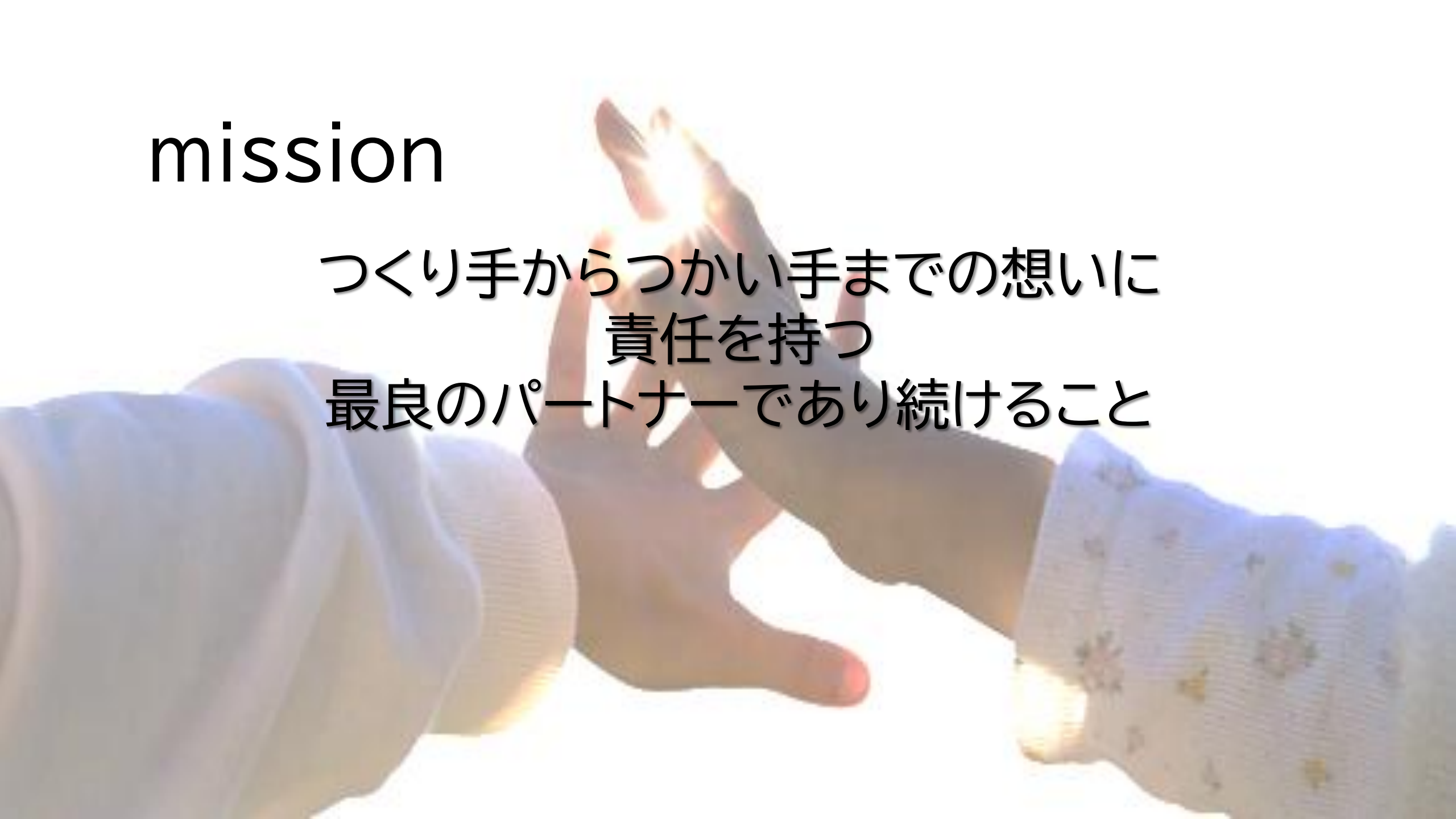








mission



つくり手からつかい手までの想いに
責任を持つ
最良のパートナーであり続けること

事業領域

流通支援価値創造業

人が生きていくうえで、あらゆる物資が必要となります。単にモノを届けるということではなく、そこにはモノを作る、作り手とそれを使う、使い手の想いがある。その想いに応えるべき価値を創り出すことを成すべき事業とする。

人事理念

最大の経営資源は人である

人間尊重

人の可能性を伸ばす

利他の心を持った、創意工夫人の育成

人事方針

・健全な価値観、正しい倫理観の向上

・粘り強く絶対に諦めない自己責任能力の向上

・頑張って成果を上げた人が評価される

公正かつ明確な評価の実現

優秀な人財の条件

一、主体的に考働し、意思決定できる人
二、経営理念に共感できる人
三、仕事を通じて自己成長できる人
四、人の意見を尊重しより良い人間関係を創れる人
五、仲間の為に自己犠牲を払える人
六、現状に満足することなく創意工夫をし続ける人
七、素直な人

創意工夫人の創出

真面目ナル現場人ノ技能ト知恵ヲ
最高度ニ発揮セシムベキ
自由闊達ニシテ愉快ナル
理想現場ノ創造

現場力とは

一、考える力を持っている
一、主体的に考働し成果を創り出す
一、コスト意識が高い
一、仕事が正確である
一、失敗から学び改善する
一、長期的、継続的視野を持つ
一、お客様の喜び、仲間の喜びを自らの喜びとする

現場VISION

現場のショールーム化

現場は会社のショールームである。百聞は一見しかず。お客様は実際に見たもので判断する。
会社おける一番の資源は人である。活き活きと働く人は商品である。
常にお客様の視線を感じて仕事をすると自らが律せられ正しい心を持とうとする。
お客様は創意工夫を感じ、美しい現場で働いている人を見て心が動き、安心する。
お客様は我々に多くを期待している。それは、安心、安全だけでなく、信頼と感動でもある。
その期待に応えるためにも、現場に誇りを持ち、自慢の現場をお客様が感動するショールーム
まで磨き上げようではありませんか。
我々にしかできない自信と魅力ある最高の現場を創り上げることを誇りに思う。

スタッフ一同

社長のミッションステートメント
使命宣言

新たな価値を創造し、社会に貢献することを目指します。
従業員の物心両面の豊かさを追求し、その実現を目指します。
自らの成長を喜びと感じてもらえる環境を創ります。

経営理念の浸透、使命、目的、ビジョン達成の為に、尽力します。
自らが経営理念の実践者たることを示します。

自らが率先垂範し学び続けて、人間力を磨きます。
尊敬され、慕われ、信頼され、好かれる、人間を目指します。

健全な価値観を持った、人財を育成します。
いかなる時も、人財の育成を最優先に実践します。

経営基盤を確立し、経営の安定化を図ります。企業永続の追求

株式会社　物研　代表取締役　土肥克次

従業員としての使命

自己成長と革新への挑戦　　創意工夫の連続

我々はお客様から対価を頂いている限りプロフェッショナルなのです。
プロに求められるのは、オペレーションではなくイノベーションし続けることです。ここで働く従業員の使命とは、プロであるという自覚を強く持ち、自己成長とイノベーションを挑戦し続けることであります。

我々の本分　尽くすべき努め

お客様の商品に責任を持つ
　　在庫差異をゼロにする

お客様の商品を大切にする
　　商品事故をゼロにする

お客様のお客様へ正しくお届けする
　　誤出荷をゼロにする

５つの約束　一日の考働指針

一、私たちは、お客様第一に考働します。

一、私たちは、仕事、職場を通して学びます。

一、私たちは、主体的に考働し結果を創ります。

一、私たちは、経営理念に基づき考働します。

一、私たちは、感謝の心を大切にします。

bukken spirits　和を持って考えて、行働し、自らに責任を持つ

1）ご縁の大切さを知る　【人はご縁によって生かされている】
人は多くの人に支えられている。多くの人との出逢いによって今の自分がいる。そのことは事実である。
そのご縁を活かすことに生きる意味がある。決して自分から縁を切ってはいけない。なにがあってもである。

2）家族・祖先に感謝する　【身近な人に感謝する心】
今の自分が存在するのは、親、ご先祖様がいるからです。まずは、一番身近にいる家族に感謝することが大切である。親に甘えることではない、親を支えてこそ本当の親への感謝であり、恩返しである。身近な人に感謝が出来ない人に誰かのために尽くす仕事などできるはずがない。

3）顧客満足主義　【全てはお客さまから】
「私たちは誰からお給料を頂いているか？」と問われると。「お客様からです」と答えるべきである。
会社から？社長から？という答えは間違いである。会社はお客様から頂いた対価を働く人たちに分配しているに過ぎないのである。
ましてや社長からいう答えは絶対にしてはいけない。社長の為に働くことなど決してしてはいけない、権力に屈して働き方を考えることは虚しい事である。常にお客様の事を考えて、お客様や世の中の為に働き、その対価として皆様への報酬があるのです。
お客様の満足を追求する活動が我が社の働き方である。その為の尽くすべき努力は怠ってはいけない。

4）いつでも、どこでもお客様と呼ぶ　【最大の尊敬を示す】
お客様は常にお客様です。だからこそ最大の尊敬の念でお客様を見る。お客様を「客」などと呼び捨てにすることは断じて許されることでは無い。

5）従業員満足主義　【お客様の喜びを自分の喜びとする】
お客様の満足を追求する活動に心から喜べる事が、従業員の満足と考える。そこに自らの成長を感じることが出来るそんな環境を創っていくことが会社の責任でもある。しかし、誰かがやってくれる、誰かへの依存的な考えに心からの満足は無いと考える。従業員が会社の理念に共感した上で自由闊達にして愉快なる創意工夫に誇りを持てることに、本来の従業員の満足があるのである。

6）あきらめない精神　【bukken spirits】やり切る力
どんなに厳しい状況でもあきらめない精神を持つことが大切である。一人で出来なければチームで考えれば出来る事がある。あきらめなければ必ず事は成す。あきらめない精神が有れば、たとえ今は上手くいかなくても大いなる反省を生み、次への改善を生み出し、そしてその精神が仲間との絆を創り、更により良い成果を創ることとなるのである。

7）折れない心を持つ　【為せば成る、成らぬは人の成さぬなりけり】
失敗は必ずある。そのたびに反省することは、気づきにつながり良しとする。しかし、落ち込んだり、あきらめたりしてはいけない。失敗を次に活かす精神力を持つことは自分自身を強くするしかない。命までは取られはしない、時にはそのように楽観的になる事も大切である。

8）三現主義　【現地】【現物】【現実】
【現地】に足を運び、その場を確認することが大切である。全ては現場で起こっておるのである。【現物】を手に取り、その物を確認する。現物を知らずに何を知る。【現実】をこの目で見て、事実を知る。真因は現実をしっかり見極めることで見えてくる。机上の空論では物事の本質は見えない。お客様の為に現場を見ることを怠ってはいけない。

9）考働こそ真実　【まずはやってみる　やったことしかわからない】
考えることは良いことである。もっと良いことは考えながら考働することである。まずはやってみることである。出来るか否かではなく、やったか、やらなかったか、が重要である。一歩踏み出すと景色が変わる。やったからこそ見えてくるものがある。やる前から、言い訳をしてはいけない。言い訳をしてやらないことは罪である。

１０）創意工夫　【創意工夫を持って感動を創り出す】
どんなことにも問いを持つことが大切である。これでいいのか？もっとできないのか？他にないのか？その問いを深く深く持ち、考え抜く事によってしか顧客満足は創れない。大きい事ではない、小さな工夫で良いのである。その小さな工夫の積み重ねがお客様の感動を創り出すのである。

１１）より以上を追求する　【現状を否定する】
現状よりも更に上を目指す。現状維持は衰退と同じ意味を持つ。固定観念は悪である。思考の質を低下させてしまう。自分自身の可能性を信じてもっとできるという意識を強く持つことが大切である。

１２）変わる勇気を持つ　【変わらないことは死を意味する】
会社を取り巻く環境は常に変化している。会社は変化対応業だと言える。変化しないことは死を意味する。
人類の進化と企業の進化は同じである。生きていく環境下の中で、強いものが生き残ってきたのではない、変化に対応したから生き残ることが出来たのである。会社も変わることが必要となる。変わることを恐れてはいけない、むしろ変わらないことのほうが恐怖である。変われ、変われ、変われと自らに言おう。

１３）現場のショールーム化　【現場こそ最大の営業マン】
現場は会社のショールームである。百聞は一見しかず。お客様は実際に見たものを判断する。一番の商品は人である。活き活きと美しく創意工夫のある現場で働いている従業員を見て判断する。現場に誇りを持ち、自信を持って現場を見てもらう。現場こそが最大の営業マンである。

１４）凡事徹底　【平凡を非凡にする】
あたり前のことを当たり前にやるだけではなく、当たり前のことを人には真似のできない程、一所懸命にやり続ける。他が出来ないことを当たり前のレベルにする努力が大切である。

１５）率先垂範　【全員リーダーという意識を持つ】
立場や役職は関係ない。どんなことでも責任を持つという事は、それにおいてのリーダーであるという意識を持つことから始める。自分が源。まずは自分が進んで手本を示す、範を示す。その姿がリーダーシップという。責任を全うすれば、必ず自分自身の成長につながることを信じて考働する事である。

１６）教育にこそ汗を流せ　【教育なしに人財なし】
教育の原点は、道徳観である。人として正しいことをする。人に迷惑を掛けない。ウソをつかない。家族を大切にする。仲間を大切にする。などである。原理原則であり、人として正しく生きる道である。そこから教育を始めなければならない。知識や技術はその後である。そして、教育とは安易にできるものではない。人と人との関係は対面である。顔を見ずに指示だけでは人に心は伝わらない。教育なしに人財なし。教育される側も心しなければならないが、教育する側は更に信念を持って行わなければならない。教育にこそ汗を流すのである。

１７）全員参加　【仲間を信じて機会を与える】
人には得手、不得手がある。仲間とはその得手を伸ばし、不得手を補い合う存在である。一人では出来ないことも仲間の力を借りれば出来る事がある、誰一人として欠けることなく全員参加で仕事に取り組むことが尊いものだと信じて、仲間に声を掛け合ってお互いを知ることでしか事を成すことはない。

１８）巻込む力を持つ　【力を借りれる実力をつけよ】
リーダーの資質に人の力を引き出す能力を問われる。リーダーが手を挙げた時にどれだけの人が集まるかが自分自身の実力である。人は使うのではなく、育てるものである。人の能力を最大限活用する能力こそがリーダーとしての資質となる。一人では何もできない、仲間の力を借りるという謙虚さも大切となる。

１９）判断力と決断力を磨く　【意思決定の精度を磨く】
仕事は選択の連続である。常に何かを選んでいる。選択という経験を積めば積むほど、決めることの精度が高くなっていく。自分で決める。という選択が自分自身を磨く事となる。

２０）遅いことは、サルでもできる　【お客様を待たせない】
何かを気にして意思決定をするならば、全ての判断基準はお客様が喜ぶかどうかである。お客様は遅いことを極端に嫌がる。早くすればそれだけ修正する機会は増える、リスクヘッジが出来ない原因は遅いことである。

２１）「はい」という言葉の意味を理解する　【「はい」で伝わる心】
「はい」という言葉は単なる反応の証ではない。存在します、理解した、実行します、という自分自身の意思を相手に伝えるという意味を持つ大切な言葉なのである。そして、力強い「はい！」は安心を与える。

２２）ドライバーさんはメッセンジャー　【ありがとうを届けてくれる存在】
ドライバーさんはパートナーであり、メッセンジャーである。お客様と我が社をつなぐ大切なメッセンジャーであることを忘れてはならない。こちらの対応が良ければ、良い情報を届けてくれる。悪ければ悪い情報を届けてしまう。ありがとうを届けてもらえる掛けがえのな存在である。

２３）自分以外はすべて師と考える　【謙虚に誰からも学ぶ姿勢】
人は必ず苦手と思う人がいる。しかし、その人は自分の持っていないものを持っている、自分とは違う考えを持っているからこそ、敬遠してしまいがちである。そうではなく、その人から学ぶという姿勢であればその人は自分自身の持っていないものを持っている師と捉えることが出来る。

２４）同じではなく違うことを尊重する　【同調ではなく異質から学ぶ】
人は同じ意見や考え方を持っている人を好む、何故ならやり易いからである。しかし、ある意味それは同調と言える、そこからは変化は生まれない。違うもの同士がぶつかり合ってこそ磨かれる。異質なものが磨き合うことでお互いが輝き合うのである。決してそこから逃げることはならない。

２５）職場は修行の場と考える　【苦悩の場に身を置くこと】
自分なりに頑張る！という言葉は、もう自分自身の成長をあきらめたということと同じである。出来ない事に挑戦することは苦痛かもしれない、しかしその苦痛からしか人の成長はない。職場は修行の場と捉える。仕事、職場で学ぶことは修行と同じである。その先に成長は必ずある。

２６）最大の人財育成は失敗させて、頭を打たせることである。　【失敗が成長をさせてくれる源泉となる】
人を成長させるには失敗を多く経験させる事である。人は失敗からしか学ばない。成功体験を積むことも大切だが、もっと大切なのは、失敗した体験からどう克服したか、という体験なのである。失敗しただけではいけない、いかなる方法や想いで失敗を乗り越えてきたのかが人としての器を拡げる。

２７）小さなミスを叱り、大きなミスを許す　【失敗の大は評価に値する、小は怠惰である】
大きなミスは、自分以上のものにチャレンジしたという事で、そのチャレンジした考働を認めることが大切である。チャレンジしたものは自ら反省し次につなげる。しかし、小さなミスは徹底的に叱らなければならない。自分ができるのにやらなかったことは怠けていて、努力をしないからである。そのものには反省を促さなければ気づかない。

２８）人間尊重　【可能性を見る】
人は誰でも大きな可能性を持っている。見た目やその時の姿勢態度も評価の対象であるが、もっと大切なのはその人の持つ可能性である。今は未だない未知なるものを見ることである。それはその人間を尊重することから始まる。

２９）良質の問いを持つ　【良質のコミュニケーション】
相手から良質の答えを聴こうと思えば、良質な問いをすることが必要となる。良質の問いからしか質の高いコミュニケーションは生まれない。

３０）自問自答力を磨く　【自分自身の可能性を問う】
自分を振り返り、より良く改善することは自分をコントロールすることにつながる。目の前に現れた壁は自分で乗越える以外に道はない、そんな時こそ自分自身に問いかけることが大切である。

３１）今ここの自分　【自らに問う】
過去と他人は変えれない、変えることが出来るのは今ここの自分自身である
人は自分以外を変えようと努力する。しかし、それは無駄な努力である。人を変える前に自分自身を変えることを実践すれば、周りは劇的に変わって行く。

３２）過去の現実は変えれないが、解釈を変えることは出来る　【過去は過去として受け入れる】
過去の出来事に縛られていて、自分自身を先に進めないことは非常にもったいない。どんな出来事も前向きに解釈することが出来る。そうすれば、自分自身の道が開けてくる。

３３）優先順位の前に劣後順位を考える　【やらないことを決める】
やるべきことの順番を並べることで仕事の量が増えてたちまち手が回らなくなる。優先順位も重要だがもっと重要なのは劣後順位を決めることである。やらないことを決めることで、優先順位の質が高まり出来る仕事が増えていく。

３４）ものごとの本質を見る　【何のために？と問う】
ものごとはあらゆる角度から見ることが出来る。それぞれに見え方は違う。しかし、ものごとの本質はひとつしかない。
必ず、原理原則にあてはまるのである。何のためにあるのか？との問いが本質となる。

３５）まずは強く想うことから始まる　【想えば叶う】
ああしたい、ああなりたいという願望はある。しかし、それが上手くいくか否かは能力が有るか無いかではない、想いが足りないのである。強く想えばその為の解決策は必ず見えてきます。能力が足りなければそれを補おうと努力します。想いの強さでいかようにもなるということである。上手くいかないのは想っていながらどこかであきらめている自分がいるのである。あきらめずに想い続けることが大切である。

３６）有言実行　【言葉と考働に責任を持つ】
言葉にしたことは、何が何でも成し遂げるという気持ちを持つことが大切である。その言葉に責任を持つことが重要である。
時には自分自身を追い込んで言葉にすることも必要である。言葉にして誰かに伝えることで応援者が必ず現れる。
覚悟を持って言葉にするのである。

３７）値決めは経営なり　【安易な値下げは周りを不幸にする】
すべては値決めから始まります。戦略的にコストを下げることはあるが、戦略の無い安易な価格設定は絶対にしてはいけない。
それは自分たちの仕事をディスカウントすることとなる。誰かの犠牲の上に成り立つ利益は絶対に続かない、誰も幸せになれない。

３８）戦略とは戦うことを略すことである　【戦わずして勝つ】
字のごとく戦略という文字は戦いを略すと書きます。市場では競争が必ず起こります。これは原理です、競争があるから市場があるのです。
しかし、無駄な競争は避けなければなりません。競争相手に圧倒的な優位性を持つ努力を行うことが大切です。価格以上の価値をお客様に
与えることが本当の戦いです。ありがとうという価値がお客様との関係性を強固にして、お互い様の価値を上げる策が本当の戦略となる。

３９）売上を最大に経費を最小に　【シンプルに考える】
入りを量って、出るを制す。経営はシンプルなものである。いかに売り上げを大きくし、使う経費を小さくするかということに尽きる。
利益とはその差であり結果である。それは、日々の努力と創意工夫の継続から生れる。

４０）クレームは宝　【お客様は最高の教育者】
クレームから何を学ぶかが大切である。まずは謝罪して頭を切り替える。クレームを一つ一つ解決すればお客様の喜びが生まれるのである。
クレームは常に成長の機会を与えてくれていると捉えることである。

４１）パートナー様を尊重する　【我々の代わりになってやってくれている感謝】
協力会社をパートナーと呼ぶ。決して下請けではない。我々が出来ないことをやって頂いているのである。我々が出来るのであれば
やってしまえばいいのである。出来ないのだから、そこには尊敬の念があって当然である。

４２）与えられた環境でベストを尽くす　【無いことを喜べ】
人はすべてを与えられてはいけない。限りがあるから良いのである。全てを与えられてしまえば人は努力をしない。創意工夫を持って
すればこれはノウハウになり会社の財産になっていく。無いことを嘆く前に、無いからどうするべきかを考えることが大切である。
戦後の日本人は何もない所から世界第2位の経済国となった。先人たちには、そういう精神があった。

４３）馬鹿になれ　【知恵ある人間こそ馬鹿になれる】
馬鹿にされたくない。という思いは誰にでもある。しかし、その思いが人生において邪魔になる時がある。少し利口になると理屈っぽくなりリスクを負わなくて済む道を模索する。チャンスをものにするには必ずリスクが伴う。考働する時は馬鹿でいい、しかし、覚悟があれば必ず誰かが知恵を貸してくれる、素直に馬鹿になれる人間は偉大である。

４４）自分らしさを強みにする　【信じるに足る自分を創る】
自分という資源を最大限活用することが重要である。自分らしさを創り上げることが武器となる。しかし、自分勝手ではいけない。
自分自身にそれでいいのか？お前の「らしさ」はなんだ？と常に問い続けることが重要である。
周りに認められて初めて本物の強みとなるのである。誰もが認める。信じるに足る自分を創ることで「らしさ」となる。

４５）人として正しいかどうかで判断する　【原理原則に従う】
正しいものは正しい、間違っているものは間違っている。その判断は、原理原則に沿って判断するのである。正しいことを思い、
正しい考働をする。あたり前のことかもしれないが、出来ていないことも多い。しかし、原理原則に従えば、悩むことはあっても、
迷うことはない。

４６）小は大を兼ねる　【Think Small】
大きなことは常に小さなものの積み重ねであると考える。事を成そうとしても上手くいくことばかりではない、上手くいかないことのほうが多いのである。だからこそ、いきなり大きなものに手をつけるよりも小さなことから手をつけた方が修正が効くことがある。小さなことから学ぶことを繰り返すのである。

４７）遠くを見つめる　【遠くにこそ進むべき道がある】
人は目の前の事に意識が向きがちである。確かに目の前の事も大切である。しかし、時には目の前から目線を上げて遠くを見つめてみる。先を見るという事である。その先に向かう為のその目の前の事は必要であるか否かの真実は遠くを見つめることで理解する。

４８）木を見て森を見ず、森を見て木を見ず　【バランスが大切である】
小さなことにこだわりすぎて全体を見渡せていない。このことも大切だが逆もしかり、大枠ばかり見てしまいコツコツ努力していることを軽視してしまう。どちらとも言えないが、どちらも重要である。この間を適切に行き来するのが経営者感覚と言える。経営者にはなれないが経営者感覚を持つことは従業員にとって重要である。

４９）仕事に誇りを持つ　【誰かの為に、役に立つ】

どんな仕事でもその仕事が続いているのであれば、どこかで誰かの為に成っている。どこの誰だかは分からないこともある、そんなことはどうでも良い、自分の仕事は誰かのために成っていると信じて、誇りを持つことが大切な事である。誇りを持てない仕事は今すぐに辞めれば良い。

５０）ゼロからの出発を恐れるな　【すべてを失った時にこそ見えるものがある】

もう駄目だ、ここまでだ、と本当に全てを失ったという心境になると、決してゼロではないことが見えてくる。そこには本当に大切なものだけがある。そこに何があるのか？その時になって見ないとわからない。しかし、その為だったら何度でもやり直せると思うはずである。

５１）そこに心流はあるのか！と自らに問う　【常に理念に立ち返る】

我が社の経営理念である「物流の前に心流あり。」という想いは、全ての判断基準であり、我が社で働く正しい価値観である。そこに心流はあるのかと自らに問うことで、働く意味と価値に気づかされ、自分自身が律せられる。我々は心を扱う仕事をしている。我々の扱うモノには多くの人の心がある。その心に応えようとする心そこが美しい。経営理念の前ではいつも清い心で居ようとする。それが全てであり、それが正しいのである。

物流の前に

心流あり。